

## 円周上の3点による直角三角形

点  $O$  を中心とする半径 1 の円周上に異なる 3 点  $A, B, C$  がある。  
次を示せ。

- (1)  $\triangle ABC$  が直角三角形ならば  $|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = 1$  である。  
 (2) 逆に、 $|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = 1$  ならば、 $\triangle ABC$  が直角三角形である。  
 < '01 大阪市立大 >

### 【戦略 1】

(1)

$AB$  が直径 または  $BC$  が直径 または  $CA$  が直径

ということから、

$$\vec{OA} + \vec{OB} = \vec{0} \text{ または } \vec{OB} + \vec{OC} = \vec{0} \text{ または } \vec{OC} + \vec{OA} = \vec{0}$$

と言ってしまうため

$$|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = |\vec{OC}| \text{ または } |\vec{OA}| \text{ または } |\vec{OB}|$$

なので  $|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = 1$  となります。

(2) ひとまず、 $|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}|^2 = 1$  という 2 乗処理をしたいところです。

平面 (2 次元) では 2 本のベクトルで全て表現できます。

( UFO キャッチャーでも 2 つのボタンで十分でしょう。 )

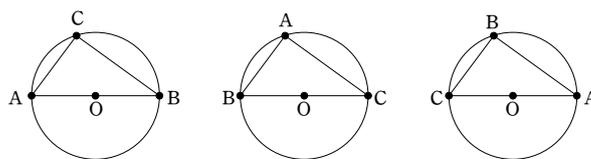
そこで  $\vec{OC} = s \vec{OA} + t \vec{OB}$  ( $s, t$  は実数) などとして、 $\vec{OA}, \vec{OB}$  という 2 本を主役ベクトル (基底) として考えていきます。

ただ、その際は、主役となる  $\vec{OA}, \vec{OB}$  が平行かどうかという場合分けが発生します。

( UFO キャッチャーでも 2 つのボタンが平行だったら叩き壊したくなるでしょう )

### 【解 1】

(1)  $\triangle ABC$  が直角三角形のとき



$AB$  が直径 または  $BC$  が直径 または  $CA$  が直径

つまり、 $\vec{OA} + \vec{OB} = \vec{0}$  または  $\vec{OB} + \vec{OC} = \vec{0}$  または  $\vec{OC} + \vec{OA} = \vec{0}$

よって、

$$\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC} = \vec{OC} \text{ または } \vec{OA} \text{ または } \vec{OB}$$

ゆえに、 $|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = |\vec{OC}|$  または  $|\vec{OA}|$  または  $|\vec{OB}|$

いずれの場合でも、 $|\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = 1$

(2)  $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$  とおく。

$$|\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}| = 1 \text{ のとき } |\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}|^2 = 1$$

$$|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + 2(\vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{c} \cdot \vec{a}) = 1$$

$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1$  より、 $\vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{c} \cdot \vec{a} = -1 \dots (*)$  を得る。

(i)  $\vec{a} \not\parallel \vec{b}$  のとき  $\vec{c} = s\vec{a} + t\vec{b}$  ( $s, t$  は実数) と表せる。

$$(*) \text{ より、} \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot (s\vec{a} + t\vec{b}) + (s\vec{a} + t\vec{b}) \cdot \vec{a} = -1$$

$$(1+s+t)\vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 + s|\vec{a}|^2 = -1$$

$$(1+s+t)\vec{a} \cdot \vec{b} + 1 + s + t = 0$$

$$(1+s+t)(\vec{a} \cdot \vec{b} + 1) = 0 \dots \textcircled{1}$$

$\vec{a}, \vec{b}$  のなす角を  $\theta$  とすると

$$\begin{aligned} \vec{a} \cdot \vec{b} &= |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta \\ &= \cos \theta \end{aligned}$$

で、 $\vec{a} \not\parallel \vec{b}$  より、 $0 < \theta < \pi$  であるため、 $-1 < \cos \theta < 1$

つまり、 $-1 < \vec{a} \cdot \vec{b} < 1 \dots (\star)$  であるため、 $0 < \vec{a} \cdot \vec{b} + 1 < 2$  となり、 $\textcircled{1}$  から  $1+s+t=0$  となるしかない。

つまり、 $t = -s - 1$  となり

$$\vec{c} = s\vec{a} - (s+1)\vec{b}$$

$$|\vec{c}|^2=1 \text{ より, } |\vec{s}\vec{a}-(s+1)\vec{b}|^2=1$$

$$s^2|\vec{a}|^2-2s(s+1)\vec{a}\cdot\vec{b}+(s+1)^2|\vec{b}|^2=1$$

$$s^2-2s(s+1)\vec{a}\cdot\vec{b}+(s+1)^2=1 \quad (\because |\vec{a}|=|\vec{b}|=1)$$

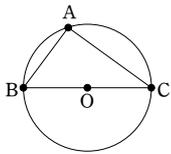
$$2s^2+2s-2s(s+1)\vec{a}\cdot\vec{b}=0$$

$$2s(s+1)-2s(s+1)\vec{a}\cdot\vec{b}=0$$

$$2s(s+1)\{1-\vec{a}\cdot\vec{b}\}=0$$

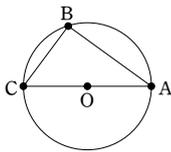
$$(\star) \text{ より } 1-\vec{a}\cdot\vec{b} \neq 0 \text{ であるため, } 2s(s+1)=0$$

$$s=0 \text{ のときは } \vec{c}=-\vec{b}$$



よって, 線分 BC が直径となり  
△ABC は直角三角形

$$s=-1 \text{ のときは } \vec{c}=-\vec{a}$$



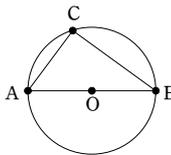
よって, 線分 CA が直径となり  
△ABC は直角三角形

以上から,  $\vec{a} \not\parallel \vec{b}$  のときは △ABC は直角三角形である。

(ii)  $\vec{a} \parallel \vec{b}$  のとき

$$|\vec{a}|=|\vec{b}| \text{ より, } \vec{a}=\vec{b} \text{ または } \vec{a}=-\vec{b}$$

だが, A, B は異なる点であるという条件から  $\vec{a}=-\vec{b}$  である。



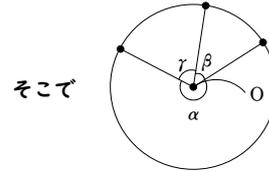
よって, 線分 AB が直径となり  
△ABC は直角三角形

(i), (ii) から

$|\vec{OA}+\vec{OB}+\vec{OC}|=1 \Rightarrow \triangle ABC$  が直角三角形  
であることが示された。

## 【戦略 2】

大きさについての情報があるため, 内積の情報は角度の情報に直結します。



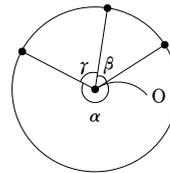
そこで

と, 角度を設定し, 三角関数によって  
仕留めることを考えます。

【解 2】(2) について

$$\vec{a}\cdot\vec{b}+\vec{b}\cdot\vec{c}+\vec{c}\cdot\vec{a}=-1 \dots (*) \text{ を得るまでは【解 1】と同じ}$$

以下の図のように  $\alpha, \beta, \gamma$  ( $\alpha+\beta+\gamma=2\pi$ ) とおく。



左図の 3 点は A, B, C のいずれかで  
 $\vec{a}\cdot\vec{b}, \vec{b}\cdot\vec{c}, \vec{c}\cdot\vec{a}$  は  
 $\cos\alpha, \cos\beta, \cos\gamma$   
のどれかと 1 対 1 対応する。

ゆえに, (\*) は  $\cos\alpha+\cos\beta+\cos\gamma+1=0$  となる。

和積公式, 及び半角公式から

$$2\cos\frac{\alpha+\beta}{2}\cos\frac{\alpha-\beta}{2}+2\cos^2\frac{\gamma}{2}=0$$

今,  $\alpha+\beta+\gamma=2\pi$  より,  $\frac{\gamma}{2}=\frac{2\pi-(\alpha+\beta)}{2}=\pi-\frac{\alpha+\beta}{2}$  であるから

$$2\cos\frac{\alpha+\beta}{2}\cos\frac{\alpha-\beta}{2}+2\left\{\cos\left(\pi-\frac{\alpha+\beta}{2}\right)\right\}^2=0$$

$$\cos\frac{\alpha+\beta}{2}\cos\frac{\alpha-\beta}{2}+\cos^2\frac{\alpha+\beta}{2}=0$$

$$\cos\frac{\alpha+\beta}{2}\left(\cos\frac{\alpha-\beta}{2}+\cos\frac{\alpha+\beta}{2}\right)=0$$

和積公式から,  $\cos\frac{\alpha+\beta}{2}\cdot\cos\frac{\alpha}{2}\cos\frac{\beta}{2}=0$

$$\cos\left(\pi-\frac{\gamma}{2}\right)\cos\frac{\alpha}{2}\cos\frac{\beta}{2}=0$$

$$\cos\frac{\alpha}{2}\cos\frac{\beta}{2}\cos\frac{\gamma}{2}=0$$

$\frac{\alpha}{2}, \frac{\beta}{2}, \frac{\gamma}{2}$  は,  $\frac{\alpha}{2}+\frac{\beta}{2}+\frac{\gamma}{2}=\pi$  を満たす正の角であるため,

$$\frac{\alpha}{2}, \frac{\beta}{2}, \frac{\gamma}{2} \text{ のどれかが } \frac{\pi}{2} \text{ と等しい。}$$

これより,  $\alpha, \beta, \gamma$  のどれかが  $\pi$  と等しいことになり, これは  
△ABC の 1 辺が直径となることを意味するため, △ABC は直角三角形  
である。

【総括】

(2) については少しスタミナが必要です。

なお、

$$\begin{cases} |\vec{OA}| = |\vec{OB}| = |\vec{OC}| = 1 \\ |\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = 1 \end{cases} \Leftrightarrow \triangle ABC \text{ は直角三角形}$$

とは言えません。

正しくは

$$\begin{cases} |\vec{OA}| = |\vec{OB}| = |\vec{OC}| = 1 \\ |\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}| = 1 \\ O, A, B, C \text{ が同一平面上} \end{cases} \Leftrightarrow \triangle ABC \text{ は直角三角形}$$

です。

-----  
【補足】

$\triangle ABC$  の外心  $O$  に対し、 $\vec{OH} = \vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}$  で定まる点  $H$  について

$$\vec{AH} \cdot \vec{BC} = (\vec{OB} + \vec{OC}) \cdot (\vec{OC} - \vec{OB}) = |\vec{OC}|^2 - |\vec{OB}|^2 = 0$$

$$\vec{BH} \cdot \vec{AC} = (\vec{OA} + \vec{OC}) \cdot (\vec{OC} - \vec{OA}) = |\vec{OC}|^2 - |\vec{OA}|^2 = 0$$

$$\vec{CH} \cdot \vec{AB} = (\vec{OA} + \vec{OB}) \cdot (\vec{OB} - \vec{OA}) = |\vec{OB}|^2 - |\vec{OA}|^2 = 0$$

が成り立ち、これは、 $H$  が  $\triangle ABC$  の垂心であることを意味します。

つまり、示すべきことは

$O$  を中心とする半径 1 の円に内接する  $\triangle ABC$  の垂心を  $H$  としたとき

$$|\vec{OH}| = 1 \Leftrightarrow \triangle ABC \text{ が直角三角形}$$

ということなのですが、直角三角形  $ABC$  の垂心は 3 頂点のどれかであることを考えると、この同値性はある程度納得いくものでしょう。

なお、三角形  $ABC$  の外心  $O$ 、重心  $G$ 、垂心  $H$  について、

$\vec{OH} = 3\vec{OG}$  となり、これは、 $O, G, H$  が同一直線上にあることを意味します。

この  $O, G, H$  が乗っている直線は「オイラー線」と呼ばれる有名なものです。